

昭和21年、終戦直後の廃墟の高知市の一等地で、復興したばかりの父・故細木高行がへと変貌を遂げました。これ妻・美智子とともに自宅で開業した細木診療所は、半世紀を経て現在の医療法人「仁生会」へと変貌を遂げました。これも、この間、苦しみと喜びをともにした大勢の職員の他、今日まで温かくお守りいただきました澤山の皆様のご支援の賜物であります。ここに心から厚くお礼申しあげます。

仁生会の歴史は、まず第1期……西町に細木診療所が開設された当時です。祖父の自

母・美智子の一人三脚で、いわゆるプライマリーケア(初めて患者の訴えに接した医療関係者が、医療の面からみて最も適切と考えられる処置をする)を実践した時代です。30年、細木病院、33年に医療法人仁生会となりました。看護婦不足に対処するため、39年土佐准看護学院を設立しました。いわゆる創設期です。次いで第2期……41年、細木病院に6階建ての本館落成です。



仁生会理事長
細木 秀美

昭和21年、終戦直後の廃墟の高知市の一等地で、復興したばかりの父・故細木高行がへと変貌を遂げました。これ妻・美智子とともに自宅で開業した細木診療所は、半世紀を経て現在の医療法人「仁生会」へと変貌を遂げました。これも、この間、苦しみと喜びをともにした大勢の職員の他、今日まで温かくお守りいただました澤山の皆様のご支援の賜物であります。ここに心から厚くお礼申しあげます。

仁生会の歴史は、まず第1期……西町に細木診療所が開設された当時です。祖父の自

長期です。

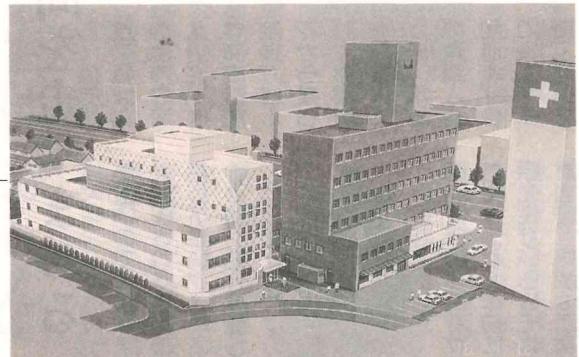
第3期……私と弟に変わったからの時代で、病院の医療の質の向上のため、医局員の大規模な増強、看護体制の充実

仁生会 創立50周年を迎えて

理事長・細木病院院長 細木 秀美
「じんせい」は創刊10周年

そのため、職員数も10年前の約650人から現在約800人に増加しました。

この第3期の初期に新設された広報誌が、職員の連携と親睦を図るために院内報「じんせい」を発行し、平成9年1月で10年を迎え、今後も飛躍を目指します。



本館(右)と仁生会創立50周年を迎える新築された新館

仁生会50年の歩み

- ◇昭和21年7月=故細木高行前理事長が細木診療所開業
- ◇30年11月=細木病院に改組(病床数53床)
- ◇32年4月=外科新設
- ◇33年12月=医療法人仁生会細木病院となる
- ◇34年5月=細木病院孕診療所開設
- ◇37年4月=整形外科新設
- ◇38年12月=病床数161に増床
- ◇39年4月=土佐准看護学院設立
- ◇40年1月=精神科新設
- ◇41年5月=本館外科棟・病棟完成
- ◇ 同6月=病床数281床に増床
- ◇ 同11月=正蓮寺に仁生会職員保養施設・山の家開所
- ◇42年10月=病床数365床に増床。精神神経科病棟完成
- ◇44年10月=病床数405床に増床。北病棟南側完成
- ◇46年3月=山ノ端町に土佐准看護学院を新築・移転
- ◇ 同6月=11病棟新設。病床数440床に増床
- ◇47年8月=小児科新設
- ◇49年9月=有限会社積善会設立
- ◇ 同10月=病床数506に増床
- ◇50年1月=細木病院孕診療所廃止
- ◇ 同12月=三愛病院を開院(病床数75)

- 床)
- ◇53年3月=北病棟完成
- ◇ 同12月=南病棟(12、13病棟)完成
- ◇54年2月=仁生会職員保養施設・宇佐横浪滝風荘開所
- ◇ 同8月=三愛病院3病棟増築
- ◇55年5月=三愛病院171床に増床
- ◇ 同7月=麻酔科新設
- ◇ 同同=細木病院611床に増床
- ◇56年11月=三愛病院に皮膚科新設
- ◇58年8月=三愛病院に耳鼻科新設
- ◇61年6月=細木高行理事長逝去
- ◇ 同同=細木秀美、理事長就任
- ◇62年1月=院内報「じんせい」創刊
- ◇ 同7月=細木病院作業療法棟新設
- ◇ 同12月=細木病院の精神科、応急入院病院に指定
- ◇ 平成4年11月=三愛病院に在宅介護支援センターいづく設置
- ◇ 同12月=厚生省、土佐准看護学院に「看護学科」併設を認可
- ◇ 5年4月=看護学科を併設して土佐看護専門学校開校
- ◇ 同3月=細木病院管理棟完成
- ◇ 同5月=細木病院成人病予防健診センター設置
- ◇ 同12月=タワーパーキング完成
- ◇ 6年4月=細木病院に在宅介護支援センター城西併設
- ◇ 同同=三愛病院に訪問看護ステーション高知設置
- ◇ 同5月=細木病院に循環器科新設
- ◇ 同7月=三愛病院、老人対象のデイケア開始
- ◇ 司10月=細木病院に泌尿器科新設
- ◇ 11月=細木病院に訪問看護ステーション高知西設置
- ◇ 7年2月=細木病院で県下初の病後児保育スタート
- ◇ 同4月=細木病院に中・四国初の禁煙外来
- ◇ 同8月=三愛病院に老人保健施設「あうん高知」を併設
- ◇ 8年5月=細木病院の病後児保育所高知市内の全園児に開放
- ◇ 同11月=細木病院に新館完成
- ◇ 同12月=日高クリニック開院
- ◇ 同同=仁生会創立50周年記念式典挙行

患者さんとの信頼を築く

仁生会50周年、「じんせい」10周年座談会

座談会出席者

(30年以上勤務者・順不同・敬称略)

| | |
|-----------------|---------|
| 副院長 | 多田 一義 |
| 同 | 浜岡 部健一郎 |
| 同 | 松井 慶子 |
| 栄養管理課長 | 福留 靖子 |
| 薬剤科長 | 田村 時子 |
| 22病棟看護婦 | 三木 須磨子 |
| 外来准看護婦 | 尾原 佳代子 |
| 82病棟准看護婦 | 尾崎 君子 |
| 同 | 西野 美穂 |
| 医事課 | |
| 仁生会理事長・細木病院院長 | 細木 秀美 |
| 司会 德弘寿男仁生会顧問弁護士 | |



年を迎えて」の座談会を開きたいと思います。まだ細木秀理事長(細木病院院長)に「あいさつをお願いします。

細木 「仁生会50年ということで、永年勤続30年以上の方10人に集まっています。この50年の流れの中で、いろいろに残っていることとか、これからこうあつて欲しいということなどを話していただきたいと思います。

なあ、司会は当院の30年来

の顧問弁護士であります徳弘寿男弁護士にお願いいたしました。それではよろしくお願ひ致します。

記録を後輩へ

司会 秀美現院長が「仁生会の発展(特集面最初の5ページ)について述べられました

先輩の苦労を肌で…

朝の4時まで手術も

毎日外来往診で多忙

病棟間を走りまわる

が、私は次のように考

えていました。高行前院長がビルマから帰ら

れて診療所を開設してから、本館の建築(昭和41年)までが第一

期・創世期

昭和37年の4月です。私よりちょうど5年前に外科に芦原先生がいらしてました。来た当座、病院は西病棟の北側

が古いのですが、お昼がいつも

に就任された当時のことをお話し下さい。

多田 私が就職したのは、

いたんですが、お昼がいつも3時から4時頃でした。もうお腹がすいて、ガムを内緒で買つてきて、かんでいました。

途中から、学校に行くので帰らせてもらいましたが、学校が終わるとまた職場に戻りました。それが当たり前のようでした。

先生は4時過ぎには回診に行かれ、それから帰ってきて手術になるので、終るのは早くても6時、遅いと9時とかいう感じでした。朝の4時頃

まで手術をしたこともありました。

今考えてみますと、狭いし、暑い時は水を足に乗せたりして手術をした記憶があります。

浜岡 私は39年の12月に就職しました。べつ数が100位で

いた。暑い時は水を足に乗せたりして手術をした記憶があります。

私は39年の12月に就職しました。そこで手術をした記憶があります。

もその状態は続いています

昭和21年7月、戦争で焦土と化した高知市の一帯で産声を上げた細木診療所は、医療法人仁生会となり、病床数80の県内有数の病院に発展し、今年、記念すべき半世紀を迎えた。まだ院内報「じんせい」は平成9年1月で発行10周年を迎えます。そこで30年以上細木病院に勤務し、功労のある10人の皆さんに集まつていただき、発展の歴史、前高行理事長の人柄、これからの仁生会の進むべき方向、「じんせい」のあり方などについて語つていただきました。

司会(徳弘)

「仁生会50周

年にあたり、それから本館建築が始まり、前院長が亡くなる(62年)までが第1期・興隆期にあたり、62年に現院長になられ、現在までを発展期といふことに考えています。

この座談会の記録は残されたものの、それを使つて、その一つの意義は、これまでどういう苦労をしてきたか、どういう発展経過をたどつてきたのか、それを残すことによつて、後輩がそれを肌で感じとつていただいくことだと思います。

この中では多田先生が一番発展経過をたどつてきたのか、それを残すことによつて、後輩がそれを肌で感じとつていただいくことだと思います。

これはたまらないと思います。口曜日も診察していまし

ていただといいますが……。

多田 それで、「昼めしが遅いなら、夕めしを遅らせたらいいのではないか」と前院長に言われました(笑)。看護婦さんも私に向き合つて、食事もしないで良くなれと、看護婦さんも私に向き合つて、食事もしないで良くなれと言つてました。

多田 上官の命令は絶対で、前院長がやれ! と言えば、やつてました。でも、私は徳弘弁護士と一緒に海軍にいましたので、上官の命令は絶対で、前院長がやれ! と言えば、やつてました。

浜岡 半分以上が結核病棟だつたと

思います。毎日、外来20人、往診15~6件と忙しかつたで

ました。でも、私は徳弘弁護士と一緒に海軍にいましたので、上官の命令は絶対で、前院長がやれ! と言えば、やつてました。

多田 30年前の古い医者なら覚えていたのですが、少し熱が出ても、栄養状態が悪かつたので、すぐワイングルを注射していました、そんな時代でした。

浜岡 今はすぐ医療が進歩してしまった、感概無量です。

多田 土佐准看護学院ができるのが39年で、1フロア20人位規模が小さく、寺小屋のようでした。昼間働いて、夜勉強だったのですが、よく居眠りをしている学生がいました。

浜岡 39年4月に就職しました。その年に土佐准看護学院が設立され、学院の1回生からお付き合いしています。

本館の方にも給食室が新設されましたので、南病棟側の給食室と2カ所となり、私は道を隔てて病棟間を東西南北に走りまわっていました。今もそういう状態は続いている

